

## 平成30年度第1回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成30年10月19日（金）14：00～16：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、須田委員、藤田委員、佐野委員、バンダイナムコスタジオ  
（事務局）井端事務局長、野本

### IV. 議事内容

1. 昨年度の振り返りと今年度の取り組みについて、参考資料や検討メモから下記のような説明、意見があった。

- ・ AIの進化から教育を変える必要があり、創造力や共感する力を伸ばすこと、起業家精神や技術を活かすための革新の部分が足りない。
- ・ 若い感性が大切な要素であること。また、企業では社内起業家になれるような独立志向の強い学生を求めている。
- ・ 外部評価の仕組みの参考として、トークンという報酬により投稿など情報の質を高める取り組みがある。
- ・ 日本は製造業で国を大きくしたが、大量生産を前提とした工場の価値が減り、物流・マーケティング・販売などが一体化して従来の役割分担がなくなる。自前主義からの脱却による他社や研究機関との協業が不可欠になってくる。
- ・ 今年度の研究として、実行力育成のため、授業の中にどのように起業学修を組み入れるのか、そのために産業界との意見交流を通じて課題を整理する。また、文系大学に対して金融・健康・農業などの地域・社会課題を取り上げる必要がある。

2. 起業学修モデルの構成について、以下のような説明、意見があった。

- ・ 起業と経営の違いをしっかりと理解させる必要がある。
- ・ 起業前のチェックとして、夢、熱意、志、同志などの有無で意思決定が必要。
- ・ 起業スタートでは、必要な知識の修得が必要。
- ・ イノベーションを起こす経営、マーケット戦略、経営資源などが求められる。
- ・ クラウドファンディングを利用した起業実習で起業前、実践、評価までを行う。
- ・ 学修モデルへの参加は、選抜・やりたい学生を対象としてはどうか。
- ・ 反転授業で起業した人のビデオなどを見てネットの掲示板などに書き込ませるなどの授業。
- ・ 価値創造のための起業学修が必要。
- ・ 大学の単位について、ボランティアやインターンシップに対して与えることを考えている。例えば、企業が単位になり得るのか。
- ・ 企業側から大学で学んできてほしいことを主張すべきではないか。
- ・ 取り組みは、大学・教員の覚悟が大切になり、乗り遅れる大学には未来がないとも考えられるのではないか。また、失敗を社会が受け入れる寛容性の文化が必要との考え方もある。
- ・ 起業学修モデルの構成案としては、「起業前のチェック」を授業項目として関連知識の修得をビデオで行うことも考えられる。また、「起業前」「起業スタート」「起業から経営」「ファンディング起業実習」「コンテスト」までで「経営」部分を軽くして、ファンディングの失敗を経験させることも良いのではないか。

### V. 今後のスケジュール

次回の委員会は11月15日に開催し、起業学修モデルの構成内容・詳細設計を検討することになっている。